アフリカの発展に貢献する

生田9号館にて

経済学部准教授　傅 凱儀

フ・ホイイー

東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。2018年専修大学経済学部入職。「アフリカの経済」、「発展途上国経済論」、「経済人類学」等を担当。専門は、アフリカの経済発展と社会。現在は主にナイジェリアを対象に研究するほか、アフリカと中国の関わりについての研究も展開している。

アフリカの農業開発についての研究

2022年に科学研究費を受けて、「ナイジェリアの農民のリスク認識とリスク管理戦略に関する学際的研究」というグループ研究を始めた。

アフリカにおける貧困と飢餓の問題を緩和するには、これまでの農法を継承しつつも、新しい技術を調和的に導入し、小規模農業の生産性と収益性を持続可能な手法で高めていく必要がある。しかし、社会経済リスクや生態環境リスクが高いアフリカ諸国では、農業の集約化と商業化がこれらリスクに対する農民の脆弱性を高める可能性があることから、農民のリスク認識と管理戦略を踏まえた開発振興策の再構築が求められている。

「持続可能な開発目標」のゴール1と2は、飢餓と貧困の根絶が掲げられている。栄養不良者や極度の貧困者の大多数はアフリカに居住しているため、SDGsの達成にはアフリカに対する支援が必要不可欠である。農業の重要性や農村人口比率の高いアフリカ諸国では、飢餓や貧困状態にある人の多くは農村部に居住し、その生計を小規模な農牧業に依存しているため、SDGsを達成するためにはアフリカにおける農業、農村の振興が最も効果的なアプローチだと考えられている。アフリカでは今後も高い人口増加率が見込まれているが、地球温暖化の影響を受けて農業の生産性は大幅に減少すると予想されている。農業生産性の改善は食料と人間の安全保障に直結する喫緊の課題である。アジアにおける実証研究の結果から、小規模農業における農業の生産性と収益性の改善が、飢餓と貧困の削減に最も効果があったことが報告されている。しかし、過去数十年を振り返ると、アジアや中南米が緑の革命（1960年代から1970年代にかけて主に途上国で行われた農業技術革新）の恩恵を受けて食料生産を飛躍的に向上させ、飢餓と貧困の大幅な削減を成し遂げたのと対照的に、アフリカでは農業の生産性および収益性の改

↑ 2012 年ナイジェリア調査　農民の子供達が集まって授業を受ける

↑ 2016 年ナイジェリア調査　遊牧民の子供達が授業を受けている

↑ 2023 年ナイジェリア調査　現地大学の卒業式に出席。真ん中の女子学生が最優秀奨学生に選ばれた

善は極めて限定的であり、人口一人あたりの食料生産量が減少した唯一の地域となった。

私は、ナイジェリアで過去十数年にわたって地域研究を継続してきた。その中で、農業の生産性と収入を改善するため、政府や援助組織が様々な技術移転プロジェクトを実施しているが、技術の定着は容易ではなく、プロジェクト終了後に多くの農民が従来の農法へ回帰するケースがほとんどであった。他方、干ばつによる水不足、高温による家畜伝染病、病害虫の発生など気候変動に関連するリスクに対して農民が独自の予防処置を講じていることを明らかにした。これらの研究成果から、アフリカにおける農業の集約化は、主体となる農民のリスク認識とリスク管理戦略に基づいた政策を通じて振興していく必要性を見出した。

ナイジェリアでの研究

私はこれまで主に中部ナイジェリアを対象として、経済人類学や開発経済学の視点から、地域資源を活かした農村コミュニティの内発的な発展プロセスについて検討してきた。農耕民と遊牧民が地域共通資源の管理制度や相互扶助関係などのローカル・イニシアティブを築き上げ、生業活動を自然環境や人間社会の変化に応じて調整することで、多民族間の平和的な共存関係を維持してきたことについて調べた。この他、農耕民による新しい農業技術の適用、放棄要因の解明、地域コモンズである伝統的灌漑システムにおける水資源の分配方法と農業開発の関係性、農産物に関する現地生産状況、市場調査なども行った。最近は、気候変動による農民の脆弱性拡大に関する研究をしている。

農業、農村振興を支援する国連専門機関である国際農業開発基金が、アフリカにおいて食料生産が停滞した理由の一つとして、新技術の適用や農業の集約化に際して、小規模農民がリスクと利益のバランスを適切にするための評価能力が不足していた点を指摘している。現在行っているグループ研究は、アフリカ農民の抱える多様なリスクやその管理戦略の全体像を掴むことを目標にしている。現地の研究者との議論から、ナイジェリアの小規模農民は非常に多くのリスクに直面していることが分かった。農業に直接関連するリスクは、土地制度、投入財の価格上昇、クレジットへのアクセス、農牧関係の悪化などが挙げられた。特に気候変動による病害虫と洪水の被害が深刻であり、農民の自助的な努力だけでは対処できないような状況である。社会経済的なリスクは、政策変更、市場リスク、治安問題、ジェンダー問題などが挙げられた。これら多くのリスクに対して農民の総合的なリスク認識、管理戦略を把握し、農民のリスク管理能力に対する正当な評価を行うよう、調査を進めている。

ナイジェリアはアフリカ最大の人口と経済規模を有する“アフリカの巨人”である。2 億を超える人口の市場潜在力が注目され、ここ数年は海外からの投資、現地資本による食品製造業の拡張が著しく、小規模農家にとって商業農業の可能性が広げられている。一方、土地収奪、市場への適応が農民にとって新たなリスクとなっている。現地研究者の協力によって、最新の状況を調べている。

人との繋がりを大切に

ナイジェリアで調査できるのは、現地の人々の助け、協力があるからである。厳しい状況でも懸命に生きて、常にベストを尽くす現地の人々に深く感謝し、少しでも恩返しできるように、私はこれからもずっと努力し続けたい。